

障がい者の自立促進と、高齢化した漁港の再興

障がい者支援

地域活性化

NPO法人ライヴ「リヴよどえ」

代表者：理事長 大田 百子
所在地：鳥取県米子市淀江町中間692
設立認証：平成23年2月
職員数：9名(平成29年10月時点)
通所者数：36名(平成29年10月時点)
活動分野：精神障がいのある方の就労支援、民謡演奏を通しての地域住民との交流支援など

○事業・活動の概要

障がい者就労支援事業所「リヴよどえ」がある鳥取県米子市は、日本海沿岸に位置し、豊かな海産資源に恵まれた地域であり、隣接する大山町には刺網漁や採貝・採藻が盛んな御崎漁港がある。

「リヴよどえ」では、この御崎漁港で収穫された海藻類や魚介類を買い取り、漁港内に設置した水産加工所で「板わかめ」(乾燥わかめ)などの商品を製造している。

漁師の高齢化等により困難になっていた、原料収穫後の商品製造・販売の作業を、障がい者が担うことで、障がい者の雇用創出と同時に、漁港の活性化につながっている。



○連携が行われるようになったきっかけ

活動の舞台となっている御崎漁港は、組合員の平均年齢が60歳と高齢化が進んでおり、近年、漁師廃業などで水揚げが減少していた。

そのような中、御崎漁港近隣に住む同NPO法人の職員と、同漁港の漁師とが、お互いの職場の事情を知り、「リヴよどえ」でわかめ干し作業を受託するようになったのが始まりである。

○事業を行う上での課題

ヒアリングに応じた同NPO法人職員は、「障がい者への福祉的な支援はもちろん大切だが、障がい者の自立という面から考えたとき、運営に「経営」の視点をもっと取り入れていく必要がある。提供するサービス・商品の質の向上を追及していくほか、自分たちにはない技術・知見を持った外部の者と連携して効率化を図ることなども必要」と考えており、今後の課題である。

○今後の事業展開について

漁師(水産業分野)と障がい者(福祉分野)の連携である「水福連携」を進めてきたが、ここに農家を加えた「農水福」の三者連携を検討している。市場に出回らない野菜(キャベツなど)を、同NPO法人が農家から引き取り、ウニの餌として加工・商品化し、水産業者に販売するという構想で、廃棄されるはずだった野菜に新たな価値を与える仕組みである。農業・水産業・福祉、それぞれの主体に相乗効果をもたらすことが期待されている。

また、これまで、漁師から提供される海産物を加工・販売するという活動形態であったが、今後は、同NPO法人自体が漁港の団体組合員となり、漁業権を取得、漁船の配備などを経て、海産物の収穫段階から携わる予定である。障がい者が漁業者として生計を立てる一助としたいと、同NPO法人職員は期待を込める。

○一層の自立、連携強化を目指して

収穫段階への事業拡大が進められている一方、製品の販売においては、障がい者自身が首都圏へ出張して販売するなど販路開拓にも携わっている。

今後は、これまで得てきた経営ノウハウをいかして、障がい者が会社を設立し健常者を雇用することで自らの生計を立てるといふ、新たな目標も生まれている。

何よりも、障がいのある方々と地域の方々が力を合わせ、御崎漁港を支えていくことを目標としている。

公表日：平成30年6月27日

取材：平成29年10月「エシカル・ラボ in とっとり」にて

外部リンク：<http://www.live-y.jp/index.html>

